

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4093100032
法人名	株式会社 創生事業団
事業所名	グループホーム イコロの里
所在地 (電話番号)	福岡県春日市平田台1丁目138-2 (電話) 092-595-8681

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年12月16日	評価確定日	平成22年1月29日

【情報提供票より】(平成21年12月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	16人, 非常勤 2人, 常勤換算 15.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り 1階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他の経費(月額)	(管理費) 30,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有(1年間)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(12月5日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.8 歳	最低	71 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	またけ内科胃腸科クリニック
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「イコロの里」は、創生事業団グループが運営する有料老人ホーム「グッドタイムホーム2・春日」とデイサービス事業所と同一敷地内にあり、グループ内での連携を活かしたサービス提供など、恵まれた環境と条件を有するグループホームである。敷地内にはファームとガーデンがあり、癒しの空間も兼ねて入居者は畑づくりと散歩を楽しむことができる。管理者・職員は、日々のケアやサービス提供において、「入居者本位」を常に考え問題意識を持ち、入居者の気持ちに寄りそうことをモットーに一丸となって取り組んでいる。全体の運営・管理に関しては、管理者を含め2ユニットの責任者2人が中核となり、職員との連携のもと職員の気づきを高め、ホームが目指す方向に導いている。ホームの雰囲気や和やかで、入居者の穏やかな表情は、管理者・職員の日々の努力の積み重ねを窺い知る事が出来る。設立より約2年目を迎える現在、地域との連携にも力を入れており、今後の展開が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での指摘事項の中で、特に今年度は「地域とのつきあい」「介護計画の見直しの際の評価」について積極的に改善している。「権利擁護の理解」「重度化や終末期へ向けた取り組み」「災害時における地域との連携」については、引き続き改善に向けて取り組んでいるところである。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の作成にあたっては、まず、職員が記入を行い、最終的に管理者が職員と話し合いながら集約されている。このことにより、職員の気づきや意識が高まり、自己評価の意義は現場にしっかりと伝わっている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議は定期的に2ヶ月に1回開催している。家族の積極的な参加があり、平均約8名ほどの出席を得ており、家族会を兼ねながら、率直な意見交換ができる場として活かしている。また、春日市の提案により、市内のホーム間での運営推進会議への相互参加をすすめており、更に会議の充実を図っていく方針がある。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族の来訪時に、家族の意見・不満・苦情は、直接言ってもらえるように努め、その内容は、ケアやサービスの質の向上を図るために内容と対策を苦情表に記録している。どんな些細なことでも、記録としてきちんと対策まで残り、積極的に運営面へ反映している点が高く評価できる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	「地域との連携」は今年度の最大のテーマとしており、自治会に加入し、廃品回収の参加・回覧板の受け渡し・平田地区夏祭りの参加・平田台公民館での盆踊りの練習参加・公民館での入居者の作品展示など地域との交流に力を入れている。また、ホーム行事であるパーベキューや夏祭りの参加を地域に募る等、ホームを理解していただけるように積極的に取り組んでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	「人生最良の時を過ごして頂く」という考えのもと、「イコロの里」の理念として「愛のある里・笑顔の絶えない里・安らぎのある里」を掲げている。「里」には地域社会の意味も込められており、地域密着型サービスとしての意義を踏まえた独自の理念となっている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念を管理者・職員で共有し、意識づけをしていくために、毎日朝礼にて理念の復唱を行っている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	「地域とのつながり」は今年度の最大のテーマとしており、自治会に加入し、廃品回収への参加・回覧板の受け渡し・平田地区夏祭りの参加・平田台公民館での盆踊りの練習参加・公民館での入居者の作品展示等、地域との交流に力を入れている。また、ホーム行事であるパーベキューや夏祭りへの参加を地域に募る等、ホームを理解していただけるように積極的に取り組んでいる。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価は、日々のケアやサービス提供の振り返りができるように、まず職員が取り組み、最終的に管理者が職員と話し合いながらまとめている。昨年度の外部評価結果に関しては、管理者・職員が真摯に受けとめ、特に今年度は「地域とのつながり」に重点的に取り組んでおり、外部評価をホームの質の向上に役立てている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	会議は定期的に2ヶ月に1回開催している。家族の積極的な参加があり、平均約8名ほどの出席を得ており、家族会を兼ねながら、率直な意見交換ができる場として活かしている。また、春日市の提案により、市内のホーム間での運営推進会議への相互参加をすすめており、更に会議の充実を図っていく方針がある。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム イコロの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	春日市の担当者より、市内のホーム間での運営推進会議への相互参加の働きかけがあり積極的に取り組み、日常的にはケアプランなど相談できる関係を築き、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者は、権利擁護に関する制度についての研修を受講しているが、職員への理解を育むことが課題となっている。日常生活自立支援事業や成年後見制度について、職員全員の理解を深める取り組みに期待したい。		職員への権利擁護の研修は、内部研修にて取り組む計画があり、入居者や家族、地域に向けての情報提供として説明できるよう、職員のスキルアップを期待したい。
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月、定期的に「イコロ便り」を発行している。「イコロ便り」は、行事報告と共に日常の風景を写真でわかりやすく報告している。面会時にも健康状態等を報告し、家族と交換日記や手紙のやりとりをする等、それぞれの家族に合わせて柔軟に連絡・報告を行っている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	家族の来訪時に、家族の意見・不満・苦情は、直接言ってもらえるように努め、その内容は、ケアやサービスの質の向上を図るために内容と対策を苦情表に記録している。どんな些細なことでも、記録としてきちんと対策まで残り、積極的に運営面へ反映している点が高く評価できる。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	入居者と職員のなじみの関係や職員の希望を優先し、法人内の異動がないように努めている。離職や異動等、やむを得ない状況の場合は、引継ぎを徹底しサポート体制を築いている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の募集・採用は、性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。職員は、生き生きと勤務できるように担当制により役割を持ち、自分の能力を発揮できるように取り組んでいる。また、職員同士の協力体制を築くことが重要と考え、何かあればミーティングでコミュニケーションを取り、まず「相手を責めない」ことをモットーに、職員全員で原因を探り、次のステップになるように取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム イコロの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	就業時には必ず「認知症の高齢者に対する人権を尊重したケアやサービス提供」に関して説明している。また、日々の入居者への言葉かけや対応等も、職員間での気づきや問題意識を高め、常に入居者の立場に立ったケアやサービスが提供できるように職員皆で協力しながら取り組んでいる。職員のヒアリングで「なぜ、もっと早く気づかなかったのか」と日々反省しているとの声があった。日々の真摯な取り組みの姿勢がうかがえた。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	隣接する同グループの特定施設への研修や、外部・内部研修に参加している。職員のスキルアップにつながるように努め、報告書にて職員全員の情報の共有化を図っているが、職員の伝達研修の記録を充実させていくことが望まれる。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	春日市は、市内のグループホーム4ヶ所に対して、各運営推進会議の参加を図っており、各グループホームの職員が1～2名、他のホームの運営推進会議に参加し、相互に運営面など学ぶ機会を設けている。このことにより、ホーム同士の交流や情報交換が進み、テーマを設定した会議のあり方など、新たな視点で取り組むことができている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居する前に訪問・見学・他のコミュニケーションを取り、希望に応じて体験入居も支援し、「なじみの関係」に配慮しながら、不安なく安心して入居していただけるよう取り組んでいる。入居約1ヶ月のケアプランに必ず「なじみの関係づくり」をあげ、自宅での暮らしの継続ができるように支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	調査当日は、料理の得意な男性の入居者がエプロンをつけ、職員と共に大根おろしを作っていた。また、献立の紹介なども入居者自身が行い、和やかな食事風景であった。ホームの庭にはファームやガーデンがあり、入居者と職員が共に作業を楽しむことができる。人生の先輩として職員は入居者の智恵や経験を学び、共に支えあう関係を築いている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム イコロの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	入居者一人ひとりの個別のその時の思いや状態を、特記としてまとめている。センター方式の内容を参考に、独自の記録しやすいフォーマット「なんでも帳」を作成し、入居者のその時々思いや意向を記録している。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	工夫されたアセスメント様式を用いて、一人ひとりの思いや意向の把握に努め、関係者の意見を参考にしながら介護計画を作成している。今後はより具体的なサービス内容を検討・記載する事により、関係者間での共有や評価がしやすくなると思われる。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	定期的に3ヶ月ごとの見直しを行っている。毎月、担当職員がモニタリング用紙に気づいた点や工夫したい点などを記入し、担当医に医療面のアドバイスをいただき介護計画を見直している。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	入居者の希望に応じて訪問医療マッサージを受けることができる。併設するデイサービスのカラオケを楽しむことができ、イベント等の参加も含め、楽しんでいただく機会をできるだけ多く提供できるように取り組んでいる。また、家族が遠方の場合、外出や外食への付き添いなど支援している。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	入居者のかかりつけ医を尊重し受診を支援している。また、入居前には協力医療機関との面談により、最適な医療が受けられるように取り組み、内科胃腸科クリニックによる月2回の往診、歯科医による毎週1回の往診など健康管理・疾病予防の体制を整えている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム イコロの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化や終末期に向けて、本人・家族のニーズを汲み取りながら、体制を整えていくこと検討しており、ターミナルケアに対応できる医療機関との連携等も視野に入れ、ホームが対応しうる最大の支援方法について関係者による話し合いを重ねている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	「目上の方である・人生の先輩である」入居者の方々の、誇りや尊厳を損なうことのないよう、言葉かけや対応への指導を行なっている。記録等、個人情報の取り扱いには十分に配慮し、ステーション外への持ち出しは厳禁としている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	一人ひとりのペースを大切にし、個々に合わせた対応を心がけている。その日のコンディション・様子をみながら、本人の希望を尋ねたり、相談しながら過ごしていただいている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	調査当日は、料理の得意な男性入居者が、エプロンを付けて職員と共に大根おろしを作っていた。また、献立の紹介なども入居者自身が行い和やかな食事風景であった。畑で収穫される野菜を料理に組み入れる等、食事を楽しみにしていただけるよう取り組んでいる。おやつづくりも入居者と共に行い、個別に外食も楽しんでいただけるように支援している。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	本人のこれまでの生活習慣や希望にあわせて、入浴したい日、時間にあわせて入浴できるように支援している。また、入浴を楽しんでいただけるように入浴剤を変える等、入浴を楽しんでいただいている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム イコロの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	管理者・職員は、入居者一人ひとりの習慣・希望・有する力をふまえて、入居者の豊かな暮らしを支えるために一人ひとりの役割・楽しみごと(食事づくり・畑づくり・掃除・買物など)を支援している。得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉と伝えるようにしている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	日課として、買物・散歩・ゴミ捨て等を、一緒に付き添い行なっている。敷地内に季節感を感じることができる広いファームとガーデンがあり、日常的に日光浴などが気軽にできる環境を有し、気分転換や機能維持などに役立っている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	玄関に鈴を設置し、職員の見守りにより鍵をかけないケアを実践している。外出する意向がある場合は、本人の意向を尊重し、職員が寄りそって外出を支援している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年2回、消防署の協力のもと避難訓練を行なっている。入居者も参加し、避難経路・避難方法の確認を行なっている。地域との協力体制は課題となっており、地域との緊急連絡網の整備も含め今後の取り組みに期待したい。		敷地内には同法人の事業所もあり、災害対策についての連携が図られている。今後は運営推進会議等を活用し、地域住民との連携体制づくりへの取り組みに期待したい。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	栄養士の献立を基本とし、一人ひとりの病状・状態に合わせ、体重の増減などを視野に入れ、必要な摂取量と栄養バランスが摂れるように支援している。水分量は、1日を通して一定の量が確保できるように取り組んでいる。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム イコロの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間は、天井が高く光が溢れ、明るく開放的な空間となっている。リビング横には和室が設けられ、掘り炬燵や障子などがあり、ゆったりとくつろげる空間となっている。照明も間接照明を設置し、心地良く過ごせる空間の工夫がある。キッチン是对面式で家庭的な雰囲気を提供している。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	各居室は名前を出さず、入り口のドア横にガラスのBOXを設け、本人の居室であることがわかるように、思い出の品を入れておくなど工夫している。各居室には仏壇や鏡台など、これまでの暮らしが継続できるように思い思いの物が持ち込まれ、一人ひとりの住まいとなっていた。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			